

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

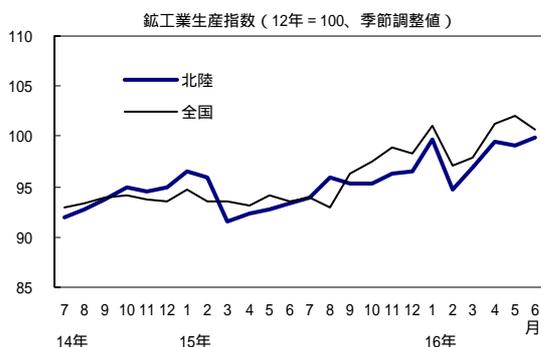
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 5 月)	今回 (平成 16 年 8 月)	
景況判断	持ち直している	緩やかに回復している	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

一般機械は、金属工作機械や土木建設機械がおう盛な内外需を背景に、増勢を持続していることから、増加している。電子部品・デバイス工業は、デジタル家電向けや携帯電話向け及び自動車関連向けのおう盛な需要を背景に、増加している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）受注増から堅調に推移しているものの、一部生産設備の定期検査に伴い減少に転じている。繊維は、衣料品が横ばいで推移しているものの、非衣料品が薄型テレビ・パソコン向けの電磁波遮断材や、自動車内装材を中心に増勢を持続しており、増加に転じている。金属製品は、ビル用・住宅用のアルミ建材などにより、増加に転じている。



(備考) 平成 16 年 6 月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
一般機械	14.8	3.7	3.5	-	-
電子部品・デバイス	13.8	3.2	9.4	-	-
化学	12.7	8.6	7.6	-	-
繊維	12.4	2.6	2.8	-	-
金属製品	10.6	2.3	4.4	-	-
鉱工業	100.0	1.0	2.4	-	-

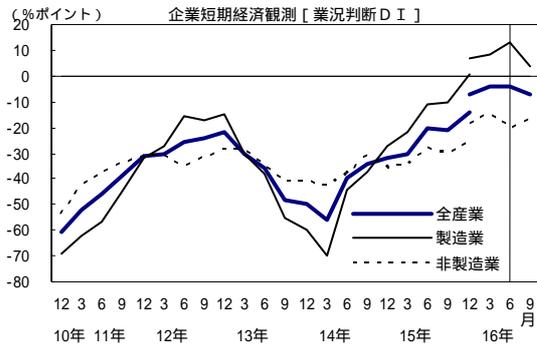
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期は速報値。

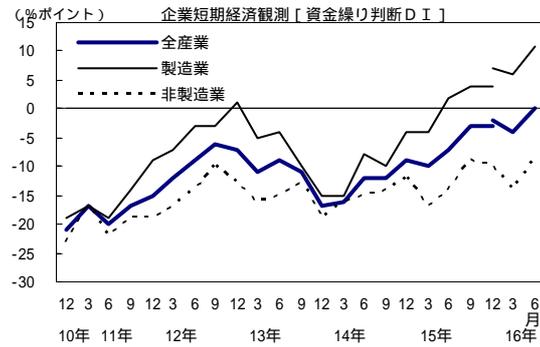
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数になっている。

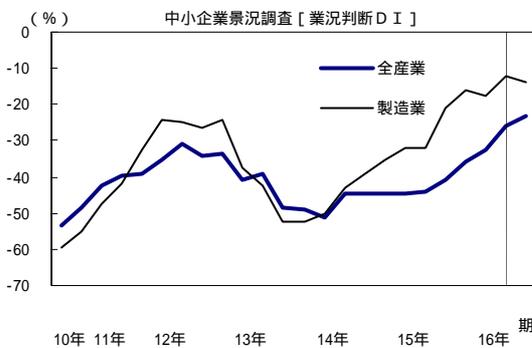
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「受注量が若干増加したが、価格が低下しており、全体的には変わらない(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

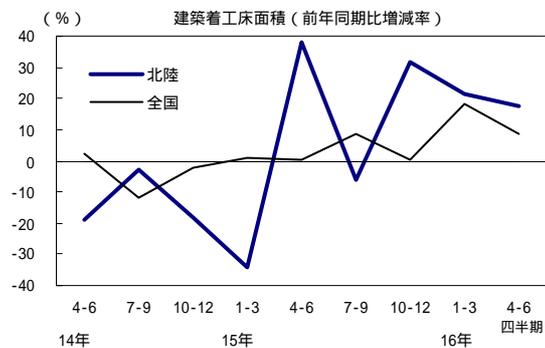
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	2.8 (2.8)	12.5 (8.3)
製造業	1.6 (0.7)	34.6 (6.2)
非製造業	7.8 (6.9)	11.0 (12.0)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

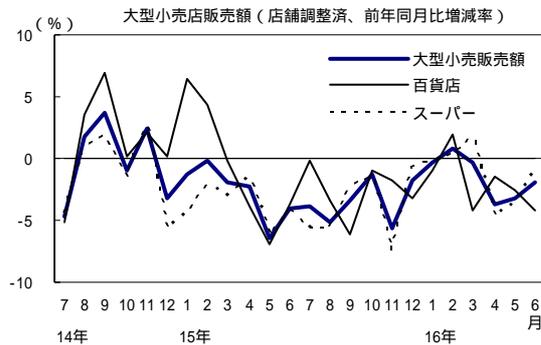
(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、飲食料品が催事や改装効果により2か月ぶりに前年を上回ったものの衣料品が不振で、全体としては前年を下回った。5月は、初夏物婦人服を中心に衣料品が不振で、全体としては前年を下回った。6月は、美術品・時計・宝飾品などの高額商品の売れ行きは好調だったものの、下旬の台風やクリアランスセール前の買い控えなどの影響から、全体としては4か月連続して前年を下回った。スーパーは、4月に全体として3か月ぶりに前年を下回り、6月には飲食料品が3か月ぶりに前年を上回ったものの、全体としては3か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「7月は昨年と同様と異なり、非常に気温が高かったため、スーツ、ジャケットの重衣料の動きが止まり、カットソー、Tシャツなどの単品にシフトした。その結果、単価がダウンしている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



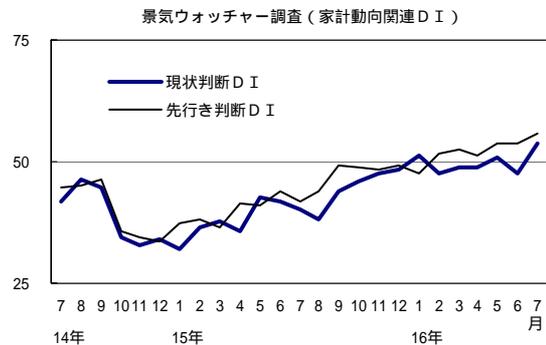
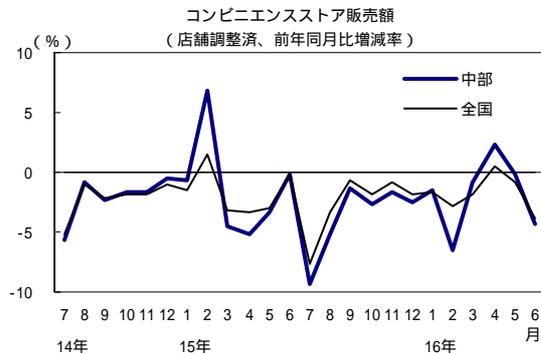
(前年同期比増減率、単位：%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	4.1	2.8	0.0	3.0
百貨店	2.9	2.2	1.3	2.7
スーパー	4.6	3.2	0.6	3.1
コンビニ	5.4	2.3	3.0	0.8
景気ウォッチャー	40.7	47.3	49.1	49.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。16年4-6月期は速報値。

コンビニ販売額は店舗調整済。中部地区の値。

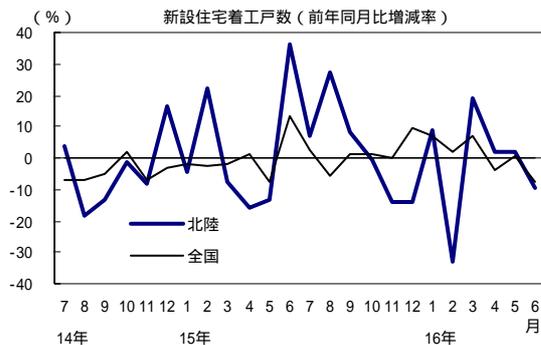
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

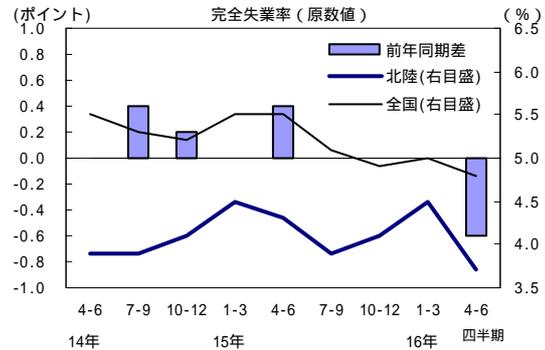
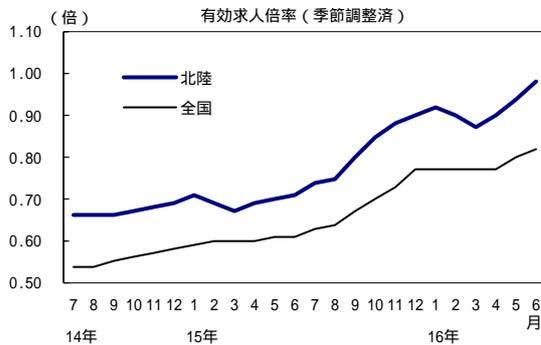


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「機械の設計部門、医薬品製造の品質管理などの業務で、3～6か月の派遣期間を経て直接雇用へ切り替わる紹介予定派遣の依頼が増えている (民間職業紹介機関)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

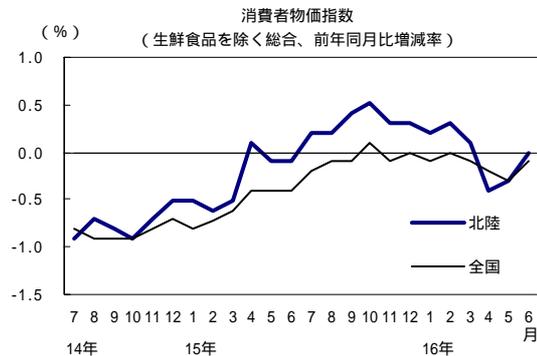
(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

7月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	113	84	101	94	29
(前年比)	23.6	26.3	12.9	6.0	31.0
負債総額	468	295	539	219	357
(前年比)	27.8	7.0	53.8	8.1	132.7



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・福井豪雨の影響が大きく、来客数は、豪雨の翌日、翌々日で前年比50%、3日後以降も同80%前後まで減少し、月末現在でも同90%にとどまっている (百貨店)。

<先行き>

- ・福井豪雨の影響で、再建不可能な企業がかなり出てくる (司法書士)。

